

つくりだそう自治の力で明るいまちを

相模原市自治会連合会の現況

地区自治会連合会数	22
自治会数	592
加入世帯数	179,737 世帯
班（組）数	12,405
H.23. 4. 1 現在	

事務局 〒252-0236 相模原市中央区富士見6-6-23 けやき会館内 TEL.042-753-3419 ●〒252-5277 相模原市中央区中央2-11-15 相模原市役所市民協働推進課内 TEL.042-769-8226

## より良い地域活動を目指し



政策要望書を提出  
いたしました!!

### 要望書内容

- 1 行政による自治会加入促進への取り組みについて
- 2 地域特性に合わせた防災計画等の見直しについて
- 3 自治会活動推進奨励金の財源確保及び掲示板交付事業の充実について
- 4 地域における安全・安心なまちづくりへの支援の充実について
- 5 交通不便地区解消への早期取り組みについて

地域には、防犯、防災、交通安全、環境美化等、様々な課題がございますが、これらの課題は、住民相互の理解と信頼のうえにたつた連携と協力により解決することが可能であると考えております。しかし、解決する過程の中では、行政との深い関わりや連絡調整など、市の支援と協働による取り組みが重要であるため、政策要望書の提出を行いました。当日は、相模原市長をはじめ、副市長などと防災や防犯、安全安心なまちづくりについて、活発な意見交換を行いました。今後も、時期を捉えこのような要望活動を続けてまいりたいと考えております。



## みんなで覚え、 みんなで備える

### 防災 標語



備える

#### 安全をバッグと心に詰め込んで

防災グッズを用意しておく事と心ではいつも安全について考えている事が重要であるということを表しています。

#### 日頃から話してますか安全を

災害時には、地域の連携が重要です。避難所生活の際にも、気軽に話せる顔見知りであるということが心の強い支えになります。このことから、日ごろからご近所と話し、コミュニケーションをとることが大切であるということを表しています。

#### 災害はこちらの都合で起らない

「まだ大丈夫」、「明日でいいや」ではなく、日々の心がけと準備が時間も場所も予測不可能な災害に備えるために大切であるということを表しています。

#### 災害時大事なひとたちどこにいる

いざという時にだけ大切な人のことを考えるのではなく、普段から大切な人と、避難時の場所や連絡方法などを共通認識しておくことが大切であるということを表しています。



『市政を話し合う会』が開かれました

2月15日(水)、市自治会連合会主催による『市政を話し合う会』が市役所で開かれ、加山市長、副市長、教育長等と本会役員・理事(22名)との意見交換を行いました。

懇談に先立ち加山市長より、「リニア中央新幹線」「相模総合補給廠」「相模大野再開発」など本市の重要な施策について説明をいただきました。懇談では、「新しい交通計画」「政令市等と連携した防災拠点」など今後の重要な施策や、これからの相模原市を担う子ども達の未来について、「修学旅行地の選定」「35人学級の継続、マンモス校の考え方」など活発な意見交換を行うことができました。

『自治会活動功労者感謝状贈呈式』

『自治会活動功労者感謝状贈呈式』が、平成24年2月4日(土)、相模原市民会館で行われ60名の方が市長より感謝状を贈呈されました。

この表彰は、長年にわたり自治会活動に従事され、心のかよいあう明るいまちづくりの推進、地域の福祉向上に寄与された方に、相模原市がそのご尽力に対して感謝の意を表すものです。

22地区の各自治会連合会から推薦された60名の方が市長から感謝状の贈呈を受けました。

受賞者は次の方々です。(敬称略)

- 小山 石田 恭一 新磯 小島 一之
安藤 孝洋 杉本 連治
森下 春夫 久保 良夫 相模台
山田 昇一 加藤 凱夫
清新 大野中 尾見 嘉正 萩原 政伸
野田 久 山梨 薫 相武台
荻原 敬三 大野南 丸塚 幾男
加藤 和夫 濱田 陽一 小林 勉
中里 博 鎌田 裕康 安平 俊明
武内 保 榎本 勲 東林
光が丘 松本 勝幸 澤田 利満
板垣 保宏 加藤 隆一 丸川 欣一
大久保忠夫 深澤 正次 城山
森 信二 市成 直治 金子 肇
橋本 阿部 義宏 津久井
伊倉 正光 長谷川 郁子 向山 武
越智 士郎 上 溝 相模湖
宮川 誠 大木 壽一 坂本 重光
小倉 辰夫 麻 溝 榎本 利光
関 欣人 時崎 孝 小川 道雄
金子 要 井上 和洋 座間 英明 藤野
井上 和洋 遠藤 正洋 西田 力男
黒瀬 博行 山崎 恭治 佐藤 和忠
三枝壽美雄 大野北 中林 光久 山崎 光正
長崎 享司



受賞者の皆さん

22地区でまちづくり懇談会を開催!!

自治会が中心となるまちづくり会議の構成員と相模原市が意見交換や情報を共有し、地区のまちづくりを協働して考える場を設け、住みよいまちづくりを推進するために「地区まちづくり懇談会」が、各地区で開催され、活発な議論が交わされました。

Table with 3 columns: 地区 (Region), 議題名 (Topic Name), and 内容 (Content). It lists 22 regions and their respective discussion topics.

第2回 中央区



みんなで行こう 憩いの場!!

各区の見所紹介

次回は緑区です

中央区は、行政機関が立地する行政の中心となる地域であるとともに、学術的な機関や研究機関なども多く、出掛けるたびに新たな発見があります。

A 相模原市役所さくら通り

相模原市内でも有数の桜の名所で、「神奈川の景勝50選」「かながわの花の名所100選」にも選ばれています。4月7日・8日に相模原市民桜まつりが開催されます。



F 鹿沼公園

白鳥などの生物が生息し、地域の人々の憩いの場になっています。



E 銀河アリーナ

冬季はアイススケート場、夏季は水泳プールとして利用することができる複合施設です。



B 史跡田名向原遺跡旧石器時代学習館

後期旧石器時代末(約20,000年前)の遺跡です。建物跡とされる遺構が発見され、現在のところわが国最古の例といわれます。



C 市立博物館

自然・歴史・天文の三つのテーマで常設展示をしており、目で見て、楽しみながら、学べるような工夫がされています。



D JAXA 相模原キャンパス

展示室内には実物大の小惑星探査機「はやぶさ」の模型も展示してあります。



人物紹介

50

この欄では、各界で活躍される方を紹介していますが、今回は、相模湖地区にお住まいの、「石井 吉彦」さんです。

石井さんは、「相模湖里の案内人」の会長として日頃から相模湖地域の歴史文化、習慣などを研究しており、小原宿のツアーガイドとして活躍される一方、相模原市の「観光マイスター」としても活動しています。また、「小原宿活性化推進会議」本陣もてなし分科会委員、NPO相模原ボランティア協会副会長、明治大学博物館友の会会員(運営委員)、市民学芸員等を歴任し、現在も幅広い分野において活動されています。今回は相模湖の石井さんにお話を伺いました。



石井さん

相模湖にはずっと住まれていますか?

私で14代目になります。先祖代々、当時相模湖(現千木良)に住んでおります。

自治会活動はされていますか?

現在自治会では、相模湖地区自治会連合会副会長、岡本自治会会長、中間連合である、千木良地区連合会の会長として活動しております。私の歴史研究や何においても言えることですが、地域の方の協力や連携

がなければ活動は出来ないと考えております。石井さんの活動の原動力は何ですか?

私は自動車関係の会社に38年間勤めましたが、自治会や現在の様々な活動は退職後に始めました。学ぶことや調べるのが昔から好きだったので、退職当時は、学び好きが講師、フォークリフトをはじめ、40もの資格を取得しました。今でも、一度興味を持ったことや疑問に感じた事は、ほぼ毎日図書館や大学などに通い調査・研究を行っております。このような生活を重ねた結果、幅広い分野の方に声を掛けていただくようになり、自分で学ぶことはもちろん、皆様にも知っていただきたいと思ひ、現在の活動を始めました。

様々な活動をするうえで重要なことはなんですか?

皆で活動を楽しむことだと感じております。私の活動のひとつに「小原宿お楽しみウォーク」という事業があります。この事業は、私が案内人として小原地域を歩き、山野草の鑑賞や小原宿本陣の見学をするものですが、案内人である私共が、参加者から様々な情報をいただくことも数多くあります。このように、一方的に伝えるのではなく、



底沢地区にて

お互いに楽しみながら学ぶことは、資料などで得た情報とは違い、季節や背景を含めとても印象に残ります。今でもその道を通る度に、参加者の方からいただいた情報やその方の顔を思い出します。

活動をしていて、印象的だったことは何ですか?

近隣の小学校で、小学生に対し相模湖の歴史を伝えたり、昔の遊び体験を一緒に実施する活動をさせていただいてありますが、活動の中で、小学生から、純粋な質問が多くありました。例えば、昔津久井の物品を平塚などへ運ぶ際に舟で相模川を下ったと伝えると、「帰りはどうするのか?」と質問がありました。私はその時、答えることは出来ませんでした。この感覚は大変すばらしく、調べて見ると、川の両側で人が綱で引きながら、帰っていたことが判明しました。そのため、川の両側には狭い場所でも、人が通れる道があることも判明しました。このように一つのことでも、全体を把握しようとする、数多くの情報が含まれていること、また、子ども達の純粋な感覚を忘れないようにしたいと感じた活動でした。

今後の抱負は?

自治会活動においてもですが、自分たちの町を愛し、自分たちの町を良く知ることが若い世代に伝えたいと日々考えております。そのためには、若い世代に対し、愛情を持ちお互いに楽しみながら今後も活動を続けてまいります。

### 伝統芸能の下九沢 御嶽神社の獅子舞

大沢地区自治会連合会  
塚場自治会  
会長 榎本 稔

塚場自治会は、約800世帯、大沢地区内では2番目に大きな自治会です。

私達の塚場自治会では、自治会活動活性化の一環として、下九沢御嶽神社の獅子舞の保存活動を支援しています。

獅子舞の由来については、太鼓の胴内に文政元年(1818年)の墨書きがあり、奥多摩から文化文政年間へ伝えられたとされています。

昭和33年に相模原市の無形民俗文化財に指定(現在は市登録)され、昭和36年には神



御嶽神社の獅子舞

奈川県の無形民俗文化財に指定されました。

例大祭当日は、塚場自治会館に集い、「下九沢御嶽神社獅子舞保存会」率いる剣獅子・玉獅子・巻獅子の三匹の獅子と鬼型の面をかぶった岡崎・花笠・笛と唄手そして、自治会役員が御嶽神社へと出発します。

御嶽神社では、岡崎がしめなわの中に入り砂山の神を取り、神の依代(よりしろ)である砂山を足で蹴散らした後、神は三匹の獅子に移り、順に舞い始めます。

このような伝統芸能の継承を始め、今後も演芸大会などを催し、子ども会・各団体の協力を得ながら塚場自治会を盛り上げていきたいと考えています。



### 我がまち・「勝坂」

新磯地区自治会連合会  
勝坂南自治会  
会長 荒井 五十四

「絆」：勝坂地区は東に座間キャンブ、北から南への傾斜地で、南前方は海老名市、厚木市の町並み、西前方は丹沢山系が見渡せる、緑が多く風光明媚な地域です。

地域内には勝坂遺跡公園、石橋尾(いわたてお)神社、旧中村家住宅等が残る歴史ある町です。

春は芝桜、相模の太麻等のまつり、夏には盆踊り大会、秋にはふるさとまつり・レクレーション大会、縄文まつり、さる菊花見会、神社のお祭り等々、年間通して多くの行事が行なわれます。

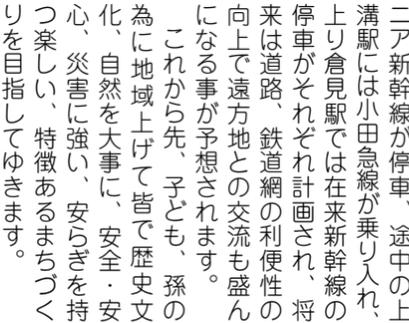
その昔は60数軒の農家が農業や蚕等を営み生活し、まちは全体が支え合い生活していた、今風の言葉の絆は当時から築かれておりました。年々外部からの転入者が多くなり、今では所帯数で約十倍まで増えました。土地っ子は転入者を暖かく迎える姿がある、行事はいつも楽しんで一体感を感じる雰囲気で行なわれます。



防災訓練の様子

「夢」：今年度中に圏央道の相模原IC(仮称)が開通する予定でこの地区からも近く、又近くを走る相模線は下り橋本駅に通じ、横浜線、京王線が交差し、2027年にはリニア新幹線が停車、途中の上溝駅には小田急線が乗り入れ、上り倉見駅では在来新幹線の停車がそれぞれ計画され、将来は道路、鉄道網の利便性の向上で遠方地との交流も盛んになる事が予想されます。

これから先、子ども、孫の為に地域上げて皆で歴史文化、自然を大事に、安全・安心、災害に強い、安らぎを持つ楽しい、特徴あるまちづくりを目指してゆきます。



### 有事の際に戸惑わないために

相模湖地区自治会連合会  
会長 澤塚 正史

今回の訓練は、運営協議会のメンバーが「避難所としての小学校をどのように利用したらよいか」「防災備品等がどこに収納されているか」など、実際に確認する訓練としました。

本年度、相模湖地区内の三つの小学校に自治会などの協力により避難所運営協議会が設立されたことから、自治会連合会及び単位自治会で組織する相模湖地区連合自治防炎隊では、各避難所運営協議会の皆様のご協力を頂き、去る12月4日に避難所の立ち上げ・運営と単位自主防炎隊との情報伝達訓練を実施しました。



訓練内容の説明(千木良小学校)



居住区画の組立(内郷小学校)



仮設トイレの設営(桂北小学校)

今回の訓練を通して、いざという時に備え、日頃から繰り返し行うことにより、有事の際にはすばやく行動がとれるような体制づくりが重要ではないかと改めて認識しました。今後、訓練で気づいた点や

問題点を踏まえ、相模湖地区連合自主防炎隊としましては、避難所運営協議会が円滑に運営できるよう協力し、地域の皆様の安全・安心のために貢献していきたいと考えています。

### 自治会で災害時支援隊を結成

津久井地区自治会連合会  
会長 落合 勝司

長竹自治会では、大きな災害が起きた際の消火活動や地域の人の支援を目的とした自治会の有志による「長竹災害時支援隊」を昨年結成しました。

消防団員不足やサラリーマン消防団員が多いため昼間の対応が遅くなるなどの課題を解決しようという取組で、自治会の自主防炎隊と異なり、任期が半永久的であることが大きな特徴です。同隊の主な役割は二つあります。一つは災害時に自主防炎隊とともに現場の後方支援に当たったり、時には最前線に立つての消火活動等を行うことです。もう一つは、平常時に定期的に研修会や交流会を行うことで、地



災害時支援隊を結成

## むかし昔 No.48

### 小山(古也麻)地域について

#### 小山地区

自治会連合会会長

武井 弘吉

さがみ野(旧相模原市地域)は、相模川流域を下段として、中段、上段の3段からなっています。そして小山地域は、その上段に位置しています。平安朝末期、横山氏の一族小山太郎が、小山に居住していたとの記述が吾妻鏡にあります。

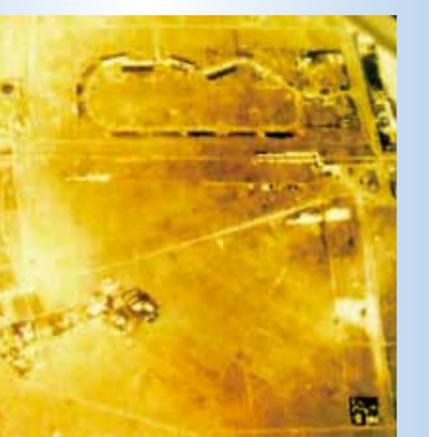
地域の伝承によりますと城址があり、矢の稽古をした場所としての場・矢懸の地名が地域内外に残っています。

明治10年の小山村皇国地誌には、「南に本村の平林あり、北は、境川の水流を帯び、西は橋本村に接す、人家は全て村の北部にあり、尤も運輸は不便にして、炭に乏しく、薪は過半本村にて足れり」また「小山村戸数 215戸、933人」とあります。



天縛皇神社

明治38年の横浜鉄道敷設計画では、境川沿いの人家の中を通すことになっていたのが、地元の人々が知事に懇願して、大幅に南の方に動かして貰ったそうです。



昭和22年撮影 相模原駅周辺の航空写真

出典 座間美都治先生著

相模原の史跡

神崎彰利先生著

歴史講座資料より

### ご案内とお願い

「自治会報 さがみはら」は、皆様の会報です。自治会・地域での様々な活動・話題などの情報やご意見をお寄せください。

#### お問い合わせは、

相模原市自治会連合会事務局  
042-753-3419  
Email: info@sagamihara-jichin.jp

### 自治会報さがみはら

編集委員

- 河本 博 有泉 健一 (大野北)
- 佐藤あつ子 澤塚 正史 (相模湖)
- 手塚 淳 榎本 光男 (中山)
- 原 照司 岡本 誠 (橋本)
- 阿部 榮一 田所 好男 (大野中)
- 富永 尚行 矢口 敏雄 (東林)